

平成 25 年度「異文化理解」教育プログラム事業報告

(自平成 25 年 4 月 1 日～至平成 26 年 3 月 31 日)

1 平成 25 年度数値目標

1. 実施校数 年間 250 校 (NET 数)
2. 講義時間数 年間 1,900 時間

年度別実績推移

(資料①)

	23 年度	24 年度	25 年度 目標	25 年度 実績	予算対比 +△
実施校数(NET)	226	245	250	268	+18
出講講師数(人)	1,032	1,107	(設定無し)	1,166	
講義時間数(時間)	1,717	1,903	1,900	1,952	+52
講師料(千円)	17,106	18,772	19,000	19,288	+288

活動の推移

実施校数(NET)及び講義時間数とも目標数値は、事業開始以来最高の数値を達成致しました。ただし、受付事務処理能力が限度に近くなってきています。

実際の申し込みは、300 校以上ですが、留学生数・講義日の集中・事務処理の限界などの理由で、学校に対して出来るだけ丁寧に出講をお断りしました。

来年度は、1 年に複数回にわたる申込校についての規制など、次年度以降に向けて出講の在り方について検討致します。

25 年度「申込学校数」(複数回の実施校)は 313 校 (資料②) で、8 月までに 257 校と年間実施校の 82%が申込み、現状では、9 月以降、学校からの申込を受理することは困難な状況で、昨年よりも申込の早期化が進んでいます。

2 講師の充実と実施校の内訳

①学校の要望に応じた国・地域の留学生講師の確保

昨年同様、ヨーロッパ・アフリカ・アメリカの地域の留学生の応募が少なくなり、「英語活動」講師から兼任講師として面接免除で、以下の 4 か国の講師を新年度に登録し補いました。

カナダ・ベラルーシ・ブラジル・中国

②中学校の実施校が増加

昨年度より数字が伸びた原因は、中学校の実施校の増加です。
昨年度は、小学校・高校の実施校が増加しましたが、本年度は中学校の大幅な増加が見られました。(資料③)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度実績
小学校	46 校(20%)	57 校(23%)	59 校(22%)
中学校	132 校(59%)	131 校(53%)	157 校(59%)
高等学校	44 校(19%)	51 校(21%)	46 校(17%)
その他	4 団体(2%)	6 団体(2%)	6 団体(2%)
合計	226 校(100%)	245 校(100%)	268 校(100%)

3 学校からの講義の満足度評価

講義を実施した学校の先生からのアンケート方式で得た評価には大変高いものがあります。(資料④)

4 事務局の対応力の向上

①申込から講義依頼まで業務分担とパソコンの効率的な活用

学校の依頼書及び留学生講師の出講について、梅村・岩澤(平成 25 年 10 月入社)で、渉外と書類作成業務をパソコンの効率的な活用で、申し込みに対し迅速に対応できる体制を目指しました。

②富山常務理事及び堀内・宮地両シニアアドバイザーの講義指導と学校へのアプローチ効果

今年度より宮地シニアアドバイザーが加わり、留学生講師の現場指導の他に、学校長や担当者へのプログラム導入の説明努力が実ってきて新規校の増加、継続校の次年度への継続実施に結び付いてきています。

以上